

## トルコ・黒海沿岸に立つ ー地域農業を支える女性農民ー

17年ぶりにトルコを訪問する機会を得た。前回は、シリア北西部国境に近いカフラマン・マラシュ県であったが、今回はトルコ北東部の黒海沿岸地域であり、その農業事情をみる事が出来た。トルコは親日的で知られている。明治時代、トルコ軍艦が紀伊半島沖で難破した際、日本の地元民が献身的な救助と看護を行ったことに対して、トルコ国民は感謝していると前回の調査では聞かされたが、今回の調査では話に出なかった。これも時代の流れか？しかし、トルコ人の親日性には何ら変わりがないことを実感し安心させられた。

今回の訪問地、黒海沿岸東部地域は茶とヘーゼルナッツ（世界の7割を産出）の産地として有名な地域である。農民はこれら換金作物や自給用の穀物・野菜の生産、及び牛を中心とした畜産業（ミルクやチーズ等の乳製品生産）などで生活を営んでいる。しかし、当該地は平野が少なく、黒海沿岸まで急峻な山が迫っているため機械力を導入することも困難で、殆どは手作業で行われている。このため、土地の生産性は低く自給用の農産物生産も十分とはいえない状況にある。一方、換金作物である茶やヘーゼルナッツは政府の価格補償の撤廃、民間企業の参入による価格競争もあり、これまでのような収入は見込めず、農民の暮らしはますます苦しくなりつつある。

ところで、このような農業の大きな担い手は女性である。急峻な農地で行われる自給用作物の生産、家畜の管理はほとんど女性の労働で担われている。また、茶やヘーゼルナッツの収穫も女性の仕事である。女性はこのような農作業とともに、家事、育児、編み物などを行いつつ、限られた余剰生産物や手工芸品を市場に持って行き、販売している。しかし、一方で女性間の連帯意識は低く、農産物の共同出荷や共同販売などはほとんど行われていない。

黒海沿岸東部地域はトルコでも開発の遅れた地域とされている。余剰農産物の販売先も都市近郊の市場以外ではほとんどない状況で、農民の現金収入は農業以外の日雇い労働や両親の退職金に依存している。このため、多くの男性労働力がヨーロッパ、トルコ大都市へと現金収入を求めて流出しており、農村は老人・女性・子供の割合が非常に高くなっている。このような農村社会を維持し、支えているのが女性である。黒海沿岸東部地域の農村開発の主要な課題は、男性不在の農村社会を守る女性農民への支援と言えよう。厳しい生活環境の中で、家族や農地を守り、地域社会を支えている寒村の女性農民の生活改善が進むことを望んでやまない。



ヘーゼルナッツの芽吹き



市場で生産物を販売する農家女性



手編みのショルダールを見せる女性

(トルコ黒海沿岸にて：財津、2005年3月)